

ドアストッパー薄型床取付用(マグネットタイプ) < 取付説明書 >

施工される方へのお願い

本説明書で使われているマークには以下のような意味があります。

警告 …… 取付けを誤った場合に、使用者が死亡または重傷を負う可能性が想定されます。
冒頭にまとめて記載していますので必ずお読みください。

！ 注意 …… 取付けを誤った場合に、使用者が中程度の傷害・軽傷を負う危険又は物的損害が想定されます。
冒頭にまとめて記載していますので必ずお読みください。

警告

下記のような医用電子機器を使用されている方の操作は、しないで下さい。
(1) ペースメーカーなどの体内埋込型 (2) 人工心肺などの生命維持用 (3) 心電計などの装着型
などの各医用電子機器に誤作動をまねくおそれがあります。

注意

フラッターが立ち上がったままになっている場合は、最後に締付けた取付けねじ2本を1/4～半回転緩めて、フラッターがフリーになったことを確認してください。ケガや故障の原因になります。
ドアを開放しておくときには、必ずストッパー本体のスイッチをONにしてロックをかけてください。
強風時にストッパーが作動しないおそれがあります。

施工上のお願い

本製品は、木質床材専用です。じゅうたん・クッションフロア等の軟質床材への取付けはしないでください。
ストッパー本体を取付けの際には、扉と床面の間の寸法を10～15mmにしてください。扉と床面の間の寸法を15mm以上にするとストッパーが作動せず、扉が通過し壁などに当たるおそれがあります。

床暖房システムを使用している部分では使用しないでください。

本製品のねじ締付け時には、クラッチ付きのドライバーを使用してください。締付けトルクが強すぎると、ねじが空転したり、ねじの頭がとんだり、つぶれる場合があります。

ストッパーが作動した状態で、ドア本体にもたれかかったり、引っ張ったりしないでください。

ストッパーが壊れるおそれがあります。

磁気商品(テープ、カード、時計、精密機器など)をストッパー本体に近づけないでください。

使用できなくなるおそれがあります。

床付金具にワックスをかけないでください。万一ワックスをかけた際には、ワックスをきれいに拭き取ってください。

作動不良の原因になります。

床付金具にホコリ・砂がかかった場合は、掃除機などで取り除いてください。

作動不良の原因になります。

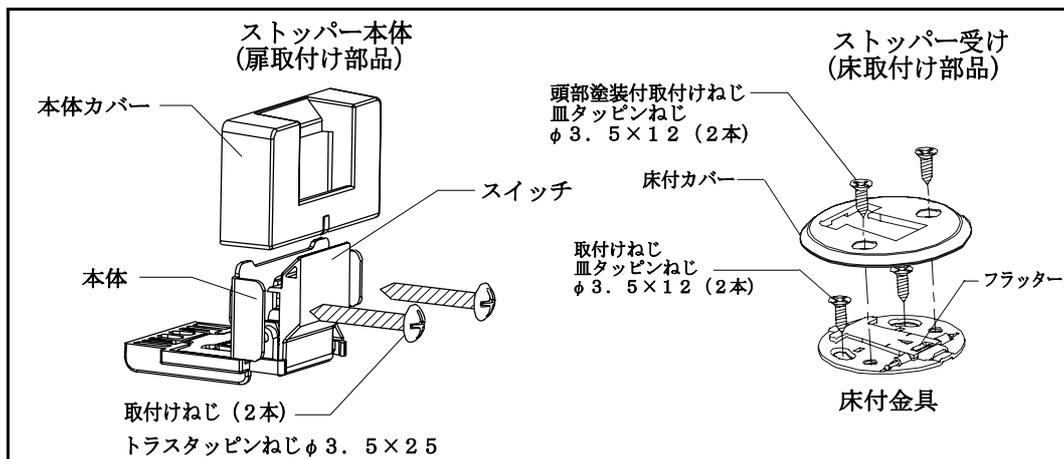
フラッターに磁気を帯びさせないでください。

作動不良の原因になります。

本体にお湯をこぼしたり、または暖房機器による熱風等を与えないでください。

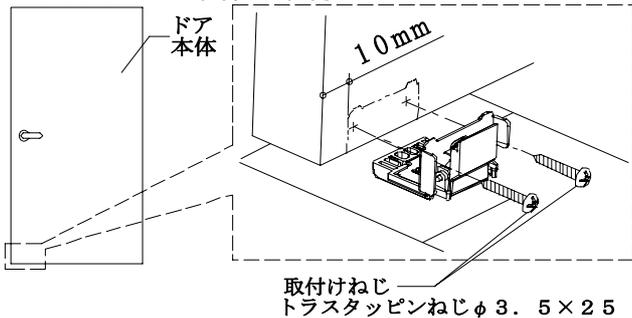
故障の原因になります。

部品・部材の明細

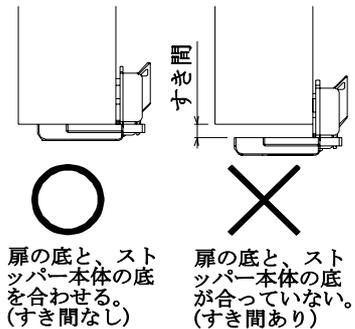
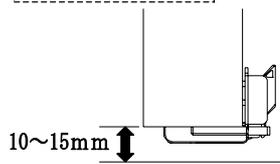


取付け順序

ストッパー本体の取付け

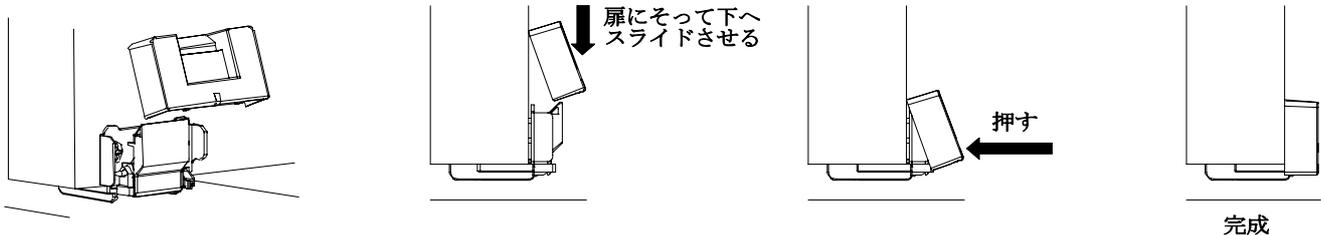


お願い
ストッパー本体の
取付けは、必ず建
て付け調整後に行
って下さい。



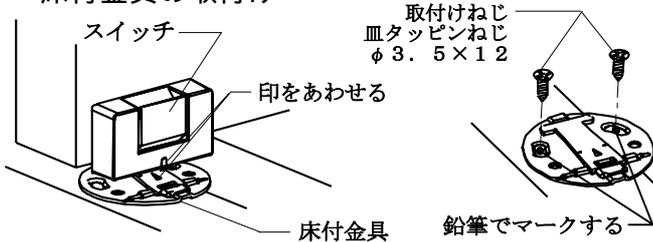
ドア本体下部木口に、ストッパー本体を引っ掛けて位置を合わせてください。
ドア本体に、ストッパー本体をトラスタッピンねじ 3.5×25で取付けます。
木扉の場合は、下穴(2.5)をあけてから取付けてください。
アルミ框ドアの場合は、下穴(1.5)をあけてから手回しドライバーで取付けてください。

本体カバーの取付け



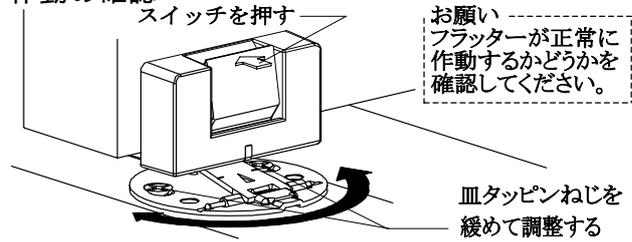
本体カバーの上面を扉に当てながらストッパー本体に覆いかぶせるようにしてください。
本体カバーが本体に当たったら本体カバーの下部を押して本体にはめ込んでください。

床付金具の取付け



床付金具とストッパー本体のセンター印の位置を合わせて、床付金具の位置出しをした後に、長孔中央部をマークしてください。
マーク部に皿タッピンねじ 3.5×12で仮固定してください。
正面向きに取付いていることを確認するために、スイッチを押してロックをかけてみてください。

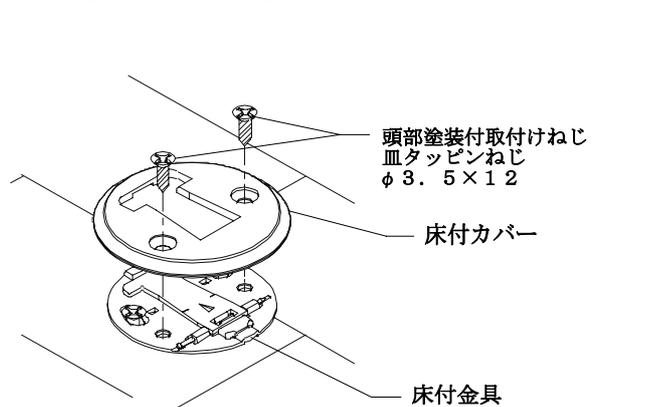
作動の確認



お願い
フラッターが正常に
作動するかどうかを
確認してください。

ストッパー本体が床付金具の真上にくるようにドア本体を開き、正常に作動するか確認してください。
スイッチを押して、ロックができることを確認してください。
正常に作動しない場合は、皿タッピンねじを緩めて位置を調整し本締めしてください。

床付カバーの取付け

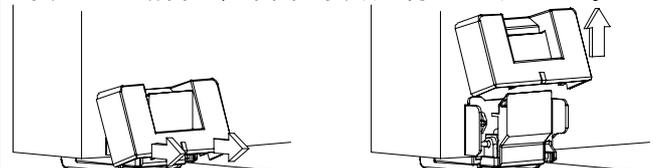


床付金具に床付カバーをかぶせて、頭部塗装付皿タッピンねじ 3.5×12で固定してください。

注意

フラッターが立ち上がったままになっている場合は、最後に締付けた取付けねじ2本を1/4~半回転緩めて、フラッターがフリーになったことを確認してください。ケガや故障の原因になります。

メンテナンスや掃除等の為に本体カバーをはずす必要がある場合は、下図の要領で行ってください。



本体カバーの下部を手前に引く。

上へスライドする。